



生駒市立鹿ノ台小学校

鹿小だより

令和 4年 6月 20日

第 7 号

<水泳指導が6月13日から始まりました>

新型コロナウイルス感染症対策のため、中止になっていた水泳指導を、本年度は



再開しました。今年は、

- ①学年で入水せずに、学級単位の少人数で入水する。
- ②更衣室ではマスクを外さず着替えをし、プールサイドに行ってからマスクを外す。



と指導しています。しかし、シャワーで水しぶきがかかって思わず「キャー」と叫ぶ子どもたちや、友だちの肩や腕に手をかけて水中でピョンピョン跳ねている子どもたちを見ますと、

- ③人との距離は2メートル以上取る。
- ④大きな声を出さないで授業を受ける。



という約束を守るとはとても難しいと感じます。



ご家庭では、初泳ぎの様子をお子さんから聞かれましたか。今年の水泳学習は、水に慣れることが第1のめあてです。最近は海よりも川辺での水難事故がよくニュースに出ています。海なし県の奈良では、「海は何だか怖いなあ。」と感じる人が多いと思いますが、池や川は身近にありますので、「大丈夫だろう。」と思

いがちです。しかし、膝より上まで水があると、動きづらいし、尻もちをつくと口のあたりまで水がきます。そういったことを水泳学習で学び、自分の命を自分で守れるようにしてほしいと思います。

さて、今年の水泳指導時の監視補助ボランティアを募集したところ、延べ108名の保護者の皆様にご協力していただけることになりました。ありがとうございます。水泳指導は7月14日まで続きますので、『やってみよう』と思われる方は、どうか教頭までご連絡ください。



<規則や決まり、約束を守る気持ちを育てる>

「なんでダメなん？ええやんかぁ。他の子もしてるやん！」……「ダメなものはダメや！」

スーパーで見かけた父と子の会話です。この言葉を聞いて、会津藩の子どもの心構えである「什(じゅう)の掟」を思い出しました。自由が認められ、個性が尊重され、自分らしい考えや表現が認められる現代社会において、この父親のように、妥協なく「アカンことはアカン！」と言い切ることは大変難しいと日々感じています。

会津藩では6歳から9歳の子どもたち10人ほどがグループになり、大人には頼らずに、自分たちだけで、規範意識を高める話し合いを毎日行っていたそうです。掟を破った者がいないかをリーダーが訊ねるのですが、その際のリーダーの決め台詞が「ならぬことはならぬものです。」というものでした。「やってはならぬこと(=してはいけないこと)は、絶対にしてはいけないのです。そして、やらねばならぬこと(=やらなければいけないこと)は、絶対にやり遂げなければならないのです。」という意味でしょうか。

<什の掟>

- ①年長者の言うことに背いてはいけません。
- ②年長者にはお辞儀をしなければなりません。
- ③嘘を言ってはなりません。
- ④卑怯なふるまいをしてはなりません。
- ⑤弱い者をいじめてはなりません。
- ⑥⑦は省略



本年度の本校教育活動の重点課題は「規

範意識の向上」で、特に力を入れているのが、規則や決まりを守る気持ちや正義感を育てることです。今年は「登下校時に制帽(赤白帽)を被る」という決まりを子どもたちに守らせてい

きたいと思います。このことを5月の全校朝会で話しますと、さっそく、6年生の登校時の帽子着用率が上がりました。学級担任が度々「6年生からその決まりを守っていこう。」「最高学年としてみんなのお手本になろう。」と呼び掛けている効果でしょうか。女子はヘアスタイルを気にして帽子を被らないで、正確には帽子を持つこともなく登校する子が多かったのですが、徐々に手に持って登校する子が増え、そして夏服になると、赤白帽を着用する子が増えました。些細な学校の決まりですが、守ろうとする気持ちをもっと育てていこうと思いますので、ご家庭のご協力をお願いいたします。

<6月15日 研究授業>



2年3組の算数「時計を生活につかおう」の授業

を見て、「一人一人の生活や思いを大切にしたい学習」について討議しました。子どもたちは4人～5人のグループで時刻や時間の文章問題を考えましたが、難しかったようです。文字盤の時計が日常的にあることも大切だなと感じました。

